

居合道 だより

第151号





はじめに

今年は暖冬のせいか梅や蟠梅が一斉に咲き始め、短い花の時期を全力で咲き、競いあっている。

テニスの大坂なおみ選手が去年の全米オープンに続き全豪オープンでも優勝した。

日本人がテニスのグランドスラムで二連覇するなどほんの数年前までは考えられなかったことだ。日本人の母を持ち日本で生まれた彼女は正真正銘の日本人だが、アメリカ在住が長いことや日本語が不得手ということもあり、数年前まではあまり馴染みがなかった。

しかし全力でボールを打ち続ける攻撃的な試合ぶりとは対照的に、勝った後は対戦相手を思いやったり、恥じらいさえも見せて素直に喜ぶ姿は、紛れもなく大和なでしこである。

以前の彼女はピンチになると集中力がなくなって自滅するパターンが多かったが、名コーチの下、体力、技術とともに心を磨いた結果、見事に己を律する精神力を身につけた。心技体そろってこそ成し得た快挙であった。

近頃縁あって能に興味を持っている。

三十数年も前、居合に行き詰まってワラにもすがるような気持ちで、クラシックコンサートを聴きに行ったり、能、狂言を観劇したりした。そしてこの歳になって再び観たいと思った。

「羽衣」の天女の舞の艶やかな美しさ。「卒都婆小町」の若くて美しかった華やかな過去を懐古する老女、小野小町の儂さのうちにも秘めた艶。大鼓、小鼓、笛の舞い手の呼吸と一体となった間合い。観る側を知らぬ間に幽玄の世界へと誘っていく。いずれも演者たちの並々ならぬ力量が感じられた。特に老女が向きを変える両肩の線と首筋、腰の構えが全く変わらぬ体幹。静かな動きの中にも鬼気迫る感情を表現していた。素人目にも相当の気力、体力が必要だと察せられた。

後日、「卒都婆小町」シテ役の人間国宝、喜多流、友枝昭世氏のインタビューをテレビで観た。

50代の頃は、老女役を演じるのに、それらしく見えるように努めたが、この頃になって自然体でその世界に入り込み演じられるようになったかなと。

当然体力は衰えたが、それを心の深さで補えるようになったかなとも。実は一番感銘を受けたのは、「羽衣」でも「卒都婆小町」でも面をつけていない「ワキ」の動きだった。「シテ」が謡い舞っている間、舞台の脇でただじっと立っている。己を主張するでもなく、かつ存在感を消すでもなく、舞台の景色と同化して長時間ただじっと微動だにせず立っている。後で聞いたところによると、この時「ワキ」は「全力で立っている」のだそうである。

古典芸能の奥の深さを知った気がした。

自然でもスポーツでも芸術でも、その気になればいくらでも居合のお手本はある。

言わずもがなのことを長文、駄文にて今日はここまで。

主な活動

1月 6日(日) 居合道初稽古会 居合道部 福岡武道館

新年稽古会が開催されました。

また、県居合道部主催の活動に皆勤と精勤の会員の表彰がありました。



2月・3月の予定

3月21日(木・祝) 北九州居合道大会

北九州剣連

北九州総合体育館

24日(日)

福岡県居合道段位審査会

福岡剣連

福岡武道館





福岡市博物館特別展「侍」が2019年9月7日から11月4日まで開催されます。

開催中試し切りなどが当居合道部より派遣されて行われる予定です。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第151号 平成31年2月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847